

組織強化と部落解放をめざす決議（案）

1年半以上にわたり、これまで毎年積み上げてきた様々な取り組み、集会、イベントが、新型コロナウイルスの感染拡大により、中止となり、中央本部、京都府連、各支部の大会等も書面決議という決断を強いられている。

しかし、互いに顔を合わせ、生の声であいさつを交わしあうことが叶わない現状にあるからこそ、それがいかに大切な機会であり、必要な時間であったかと痛感する。仲間との信頼関係、連帯の大切さを思い知る機会ともなった。

1922年3月3日、「全国に散在する吾が特殊部落民よ團結せよ。」との呼びかけがなされ、この京都の地で全国水平社創立大会がひらかれた。来年、100年となるその長きにわたる歴史と伝統を引き継ぎ、先人の熱に負けない強い思いを持ち続けよう。地元、地域に根差した「福祉で人権のまちづくり運動」を、様々な立場やイデオロギーを超えて、周辺の地域住民を巻き込みながら多くの人々とともに展開していこう。

こうした大きな課題に直面した現在だからこそ、私たちは、足元の支部・地域において、休業や失業を強いられている仲間や、孤独に過す高齢者、不安を抱える若者や、ひとり親世帯などに目配りをしつつ、困りごとの解決のため「世話役」をかってでることが求められている。

部落差別がこの社会からなくなっていない以上、差別のために生じる悩み事、生きづらさが解消することはない。それに応える組織としての、われわれ部落解放同盟の存在意義を再確認しようではないか。

水平社創立100年に向けてわれわれが歩んできた道のりを振り返ると同時に、未来の100年に思いを馳せる又とない機会と捉え熟考しよう。そして、差別の痛みとともに、人権の尊さを、若い人たちへ、差別を知らない人たちへ届けよう。

2021年6月15日

2021年部落解放同盟京都市協議会定期総会